

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	文化交流史（前期）	
科目基礎情報							
科目番号		0181		科目区分		一般 / 選択	
授業形態				単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		生産デザイン工学科（知能ロボットシステムコース）		対象学年		5	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材							
担当教員		海上 尚美					
到達目標							
1) 民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 2) 19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 3) より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自分なりに考え説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		民族、宗教、生活文化の多様性をとおおむね理解できる。		民族、宗教、生活文化の多様性についての理解が十分でない。	
評価項目2		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、とおおむね理解できる。		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係についての理解が十分でない。理解が十分でない。	
評価項目3		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自分なりに考え説明することができる。		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について考える必要を理解できる。		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について考える必要を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		日本列島と朝鮮半島（および東アジア諸地域）の歴史を描いた記録・創作物等の読み解きを通して、東アジアの歴史に関する知識を深めるとともに、自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について考える。					
授業の進め方・方法		・本授業は教員による講義と学生による発表・討議によって構成される。 ・映像作品・文学作品等の鑑賞と分析も適宜取り入れる。					
注意点		・受講生の関心や時勢に応じて講義内容を変更することがある。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	文化交流史とは何か（1）		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自らの考えを説明することができる。		
		2週	文化交流史とは何か（2）		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		
		3週	東アジアの国際秩序の転換（1）		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		
		4週	東アジアの国際秩序の転換（1）		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		
		5週	韓国併合と日本の植民地政策		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		
		6週	韓国併合と日本の植民地政策		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		
		7週	韓国併合と日本の植民地政策		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自らの考えを説明することができる。		
		8週	中間試験		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		
	2ndQ	9週	分断国家の成立と南北関係		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		
		10週	分断国家の成立と南北関係		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		
		11週	分断国家の成立と南北関係		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自らの考えを説明することができる。		
		12週	台湾の植民地支配と歴史認識		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		
		13週	台湾の植民地支配と歴史認識		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		
		14週	台湾の植民地支配と歴史認識		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自らの考えを説明することができる。		
		15週	総合討論		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自らの考えを説明することができる。		
		16週	定期試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	演習・レポート		合計	
総合評価割合	80	20	0	100	
基礎的能力	80	20	0	100	